

こばやし じゅん
小林 純さん（江田島市地域おこし協力隊）
2016年度1次隊 青年海外協力隊
派遣国：東ティモール 職種：理学療法士
2021年2月28日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

地域のつながり 重要

東ティモールから帰国して2年半が過ぎた。現在は江田島市地域おこし協力隊として、少子高齢化と外国人住民の増加により大きく社会構造が変化している地方の地域おこし（活性化）に取り組んでいる。

2016年、東ティモールのバウカウ県立病院へJICA海外協力隊理学療法士隊員として赴任し、同僚の理学療法士の技術向上に協力した。活動中、結核性髄膜炎により歩行困難となった女の子と出会い、再び歩いて学校に通うために理学療法を担当した。一人で歩けるようになって退院した後、様子を見に彼女の家に行くと、彼女の面倒をみるために10歳の姉が小学校に行けなくなっていることを知った。

貧しさから両親は働かざるを得ず、独立戦争の遺恨で孤立する一家が頼れる隣人はいなかった。理学療法士と

して彼女の身体機能を改善することばかりに目を向け、彼女を取り巻く地域に目を向けていなかった。独立戦争という地域を分断した歴史を知ろうとしていなかった自分を悔やんだ。

それ以降、病院の活動に加え、障害者支援団体が実践する地域と障害者（児）をつなぐ場づくりに関わり始めた。地域のつながり（顔のみえる関係性）の重要性を再認識した。

新型コロナウイルスの感染症拡大による恐怖と収束が見通せない不安から、地域のつながりはますます希薄化している。海外で外国人住民として地域に向き合ってきた経験を生かし、誰一人取り残さない江田島市の実現に貢献したい。



東ティモールの病院で子どもの歩行練習をする